

吟香生誕記念講演会 『岸田吟香と宝寿寺会陽』

黄蕨の会 丸谷憲二

## 1 はじめに

4月29日の岡山歴史研究会令和6年度定期大会記念講演は、山口豊氏（武庫川女子大学教授）の『岸田吟香の生涯と功績』でした。岸田吟香「天保9年（1838）幼名辰太郎が5歳で宝寿寺住職に学問を学ぶ。」との説明でした。奈良坂山宝寿寺会陽（久米郡美咲町中埴和）は西大寺会陽の起源を探るために、研究開始直後の平成4年に訪問しています。訪問理由は『久米郡誌』に「貞観二年（860）慈覚大師天下泰平人民利福を祈って備前西大寺と同時に創建したもので、古代式の会陽会式の行事を存している。」と記録されているからです。昭和13年迄は住職が常住し、現在は無住で亀甲の長安寺住職兼務も知らずの訪問でした。

## 2 シンギの現物確認

平成4年の調査訪問時にはシンギの現物確認ができませんでした。地元の人から「この木のつるを切っている。」と採取している木の説明を受けサンプルを採取しました。そして植物図鑑で葉の形状から調査しましたが植物名を間違いました。

平成17年10月に岡山県教育委員会の『岡山県の会陽の習俗』調査を担当されたのが今木義法氏です。今木義法氏は「シンギはハナエダ（櫛）の小枝をチンチンカズラ（アカメカズラ）で束ねてつくった。ハナエダは決められた家の藪に繁っている一本の木から採るようにかたく定められていた」との報告ですが、私の訪問調査では決められた家のチンチンカズラの本の木からの採取でした。他の寺社のシンギ形状とは明確に異なっており奪い合うようになる前の形態です。



※ 『岡山県の会陽の習俗 総合調査報告書』平成19年 岡山県教育委員会 p135p139

## 2.1 現存する最古のシンギ



今木義法氏の調査では最古のシンギは慶應二年(1866)です。

### 3 ハナエダとは

ハナエダとはシキミ科の常緑小高木でシキミの別称は墓前や仏前に供えるからだといわれ、和名は植物体が**有毒**なので悪しき実の意味という説があり、果実の形態が香辛料の八角(大茴香, スターアニス)と似ており、**集団中毒が発生**したことがあります。

成分 セスキテルペン, フェニルプロパノイド, モノテルペン

#### 薬効と用途

牛馬の皮膚寄生虫駆除に煎液を塗布する。

成分のアニサチン, シキミニン, イリシンは**有毒**です。

誤食すると嘔吐, 下痢, 呼吸障害, 循環器障害などの中毒症状を起こし, 血圧上昇, 昏睡状態を経て**死に至る**こともあります。

### 3.1 チンチンカズラ(アカメカズラ)とは

市街地の中の草地に生える落葉藤本(とうほん)で、雌雄異株(しゅういしゅ)。カミエビ(神衣比)、チンチンカズラ、ピンピンカズラとも呼ばれます。



アオツヅラフジは都市部に多く道路端のツツジ(躑躅)などの植え込みやフェンスに絡まっていたり、荒地に生えていたり、生え方だけを見ると帰化外来種のように見えますが**日本の在来種**です。

※ アオツヅラフジ

<https://mirusiru.jp/nature/flower/aotsudurafuji>

### 3.2 防己(ぼうい)の薬効

防己(ぼうい) 大葛藤(おおつづらふじ オオツヅラフジ)

生薬名は和防己(わぼうい) 防己(ぼうい)です。

オオツヅラフジの成分は、根や茎にアルカロイドのシノメニン、ジシノメニン、マグノフロリン、シナクチン、ツヅラニン、アクチュミン、マグノフロリン、イソシノメニ



ン、ツヅラニン、ステファリンなどが含まれます。  
使用部位はオオツヅラフジの蔓（ツラはツルの古名）、  
茎、根です。

### 3.3 防己（ぼうい）の服用方法

防己は日本薬局方の漢方処方用薬であり、鎮痛薬、利尿薬とみなされる処方に配合され、神経痛、むくみなどに煎用するか又は配合剤として用いられます。防己を服用すると浮腫や関節水腫、関節痛、神経痛、リウマチ、脚気などに効果があります。防己を煎じる場合は、防己約5グラムから10

グラムを水 600cc から 800cc の中に入れて 15 分から 20 分程煎じて、煎じ終われば薬草は取り除き 1 日数回に分けて服用します。

※ やなぎ堂薬局 <http://www.yanagidou.co.jp/syouyaku-yakusou-boui.html>

## 4 副シギの材質は檜の木

今木義法氏は「副シギは檜の木を指の太さぐらいに割って、チンチンカズラで三本ほどくくってつくった」と報告すれども写真は公開していません。

※ 『岡山県の会陽の習俗 総合調査報告書』平成 19 年 岡山県教育委員会 p136

### 4.1 金山寺のシギ材質も檜の木



銘金山観音寺遍照院(岡山市北区金山寺)は天平勝宝元年(749)開基、本尊は千手観音で心木(真木)材質はヤナギカシ(長寿仙人柳)です。松原宏澄前住職は「真木の採取は本尊より向かって、その年の歳徳神の方向にある檜の木(葉の裏側が白色の木)を採取する。山内に多い木である。」と。ウラジロカシです。岡山県の方言ではウラジロカシを「ヤナギカシ又はカシノキ」と呼びます。宝暦13年(1763)に京都東山扶桑楼上にて開催された物産会の出陣目録の「柳品11種」の内に「長寿仙人

柳(檜柳)」があります。

※ 岡山県樹木目録・難波早苗・昭和 61 年・岡山県農林部林政課

#### 4.1.1 ウラジロガシの薬効

ウラジロガシは葉の裏が白く「ウラジロガシ」と呼ばれます。カシにはアカガシ、ツクバネガシ、イチイガシ、シラカシ、ウバメカシ、アラカシなどがあります。シラカシとウラジロガシはよく間違われます。しかし、薬効は同一です。日本固有の民間薬であり胆石症と腎石症に用いて結石の形成の抑制および結石溶解作用があります。

日本薬局方外生薬規格 2018 収載品。

日本の民間薬。1925 年頃、徳島県勝浦町で同地方のウラジロガシの葉の煎剤を服用し

たところ、胆のう結石に著効があったと報告されました。1958 年以降、ウラジロガシに生体内結石溶解または結石形成抑制作用があることが実験的に証明されました。尿路結石などには細かく刻んだウラジロガシの 1 日量 50~70 グラムに水 700~1000 ミリリットルを加えて煎じます。沸騰させ、さらに 3 分の 1 に煮詰めて 1 日数回服用します。

※ 「和漢薬百科図鑑」 Vol. II, pp. 97-98

※ 「ウラジロガシ 結石抑え溶解作用も」 <https://www.agrinews.co.jp/p17565.html>

#### 成分

フラボン、タンニン性物質類、脂肪酸、トリテルペン等が抽出確認されています。

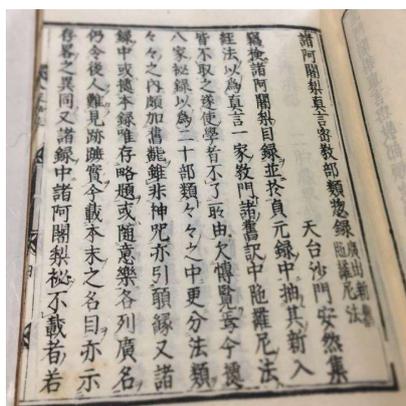
※ 「薬用植物一覧表」 <http://www.e-yakusou.com/yakusou/035.htm#>

### 4.1.2 金山寺の歯木加持

金山寺新住職再興第三十一世岸本賢信師晋山式の説明、小串(ごぐし)に注目しました。小串は金山寺会陽で宝木投下に先立って撒かれる護符です。会陽は修正会と言い旧正月の初めに一年間の国家安泰を祈る儀式です。金山寺は開山報恩大師以来、行法として七日七夜不断で大悲心陀羅尼を唱え続ける温座秘密陀羅尼会を伝えて居り、結願に加持した宝木を求めて裸衆が集うのが会陽です。小串の先に櫛の葉を挟み牛王寶印を巻き付けた物で、串枝の先に櫛を挟むのは秘教の伝法灌頂に使われる歯木(しばく)を象ります。これは、金山寺が中興の祖である栄西禅師(ようさい・1141~1215)以来天台密教の灌頂の儀式を伝えるお寺である事に因むものです。

歯木加持です。歯木加持とは楊枝加持ですが、金山寺では歯ブラシとしてウラジロガシを使用します。ウラジロガシの生木を噛むとフラボン、タンニン性物質類、脂肪酸、トリテルペンなどが体内に吸収されます。これが医方明、仏教医学です。歯木加持が供養会の始まりです。会陽の語源が供養会です。

## 5 まとめ



江戸時代迄の会陽は歯木加持の供養会でした。明治時代になり寺院より医者と薬局機能が取り上げられ、現在のシンギを奪い合う会陽に変質しました。寺院の生き残り策です。私は仏教医学の立場から寺社の訪問調査を実施しました。岡山県内の寺社で注目した史料が金山寺蔵『安然の諸阿闍梨真言密教部類総録』です。その目録内容から「寺家における医学修学の状況」を知ることができる史料です。

※ 『諸阿闍梨真言密教部類総目』(一名)八家秘録

※ 貝葉書院 - Baiyoushojin

<https://www.facebook.com/baiyoushojin/posts/2426906864002078/>

最古のシンギ、慶應二年(1866)に注目しました。岸田吟香・幼名辰太郎少年が 5 歳で宝寿寺住職に学んだのは天保 9 年(1838)で、奪い合う前の本当の会陽が実施されていまし

た。何処にでもあるチンチンカズラ・ウラジロガシが住職の加持祈禱を受けると漢方薬に変身します。これが御福（神仏のお下がりを戴く）の意味であり仏教医学です。

岸田吟香の生涯で、34歳で日本初の液体目薬の販売、44歳からの売薬業への専念、57歳での全国薬業組合会頭、62歳での日本薬学会編集委員等の経歴の原点が、辰太郎少年が5歳で宝寿寺住職に学んだ仏教医学にあることが理解していただけましたか。何処にでもあるチンチンカズラ・ウラジロガシが住職の加持祈禱を受けると漢方薬に変身します。これが御福（神仏のお下がりを戴く）の意味です。歯木加持の供養会については、『備前西大寺会陽 元和二年（1616年）枝牛玉の考察』を説明します。

## 6 参考文献

『会陽の起源への挑戦 17年目の中間報告』丸谷憲二 平成20年2月13日 岡山県立図書館

『備前西大寺会陽 元和二年（1616年）枝牛玉の考察』丸谷憲二 平成22年4月25日岡山民俗学会発表

『西大寺他、会陽の起源への挑戦』丸谷憲二 平成30年2月3日

『会陽の御福窓と御福銭』丸谷憲二 平成31年2月23日

『持宝院の十二角形のシンギ』丸谷憲二 令和1年11月24日

『宝寿寺会陽の起源について』丸谷憲二 令和3年2月21日

『安住院会陽と西大寺会陽』丸谷憲二 令和3年2月26日

『金山寺会陽等、会陽の起源について』丸谷憲二 令和3年3月11日

『新訂作陽誌』作陽古書刊行会 1914年

『久米郡誌』久米郡教育会 1923年

『旭町誌』旭町 1997年

『岡山県の会陽の習俗 総合調査報告書』岡山県教育委員会 平成19年 p135～p139